

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2022023

プロジェクト名 日大農場産の美味しく新鮮な野菜を子供達へ

プロジェクトの概要

生産現場では外観だけによる選別のために多くの販売できない規格外農作物が生じます。このような農作物のロスをなくすため、本プロジェクトでは、日大農場で作られた規格外のために販売できない農作物を子ども食堂に送り有効利用することと、見た目からは判断できない美味しさについて知ってもらう食育の効果を狙いとしました。また、農作物の提供を通じて、日本大学で美味しい農作物が作られていることを知ってもらう機会を設けるために実行しました。

プロジェクトの結果・成果

当初のプロジェクト計画では、ボランティアで学習指導を行っている子供塾メンバーを通じて、規格外農作物等を配布する予定でしたが、コロナウイルスの感染が減少傾向にならず、その結果、子供塾自体の開催が中止になってしまいました。そこで私たちは、当初の計画の軸をずらす、尚且つ子供たちと関われる場所はないかと検討した結果、子供たちやその保護者の方々に無料、または安価で栄養のとれた食事を提供する社会活動「子ども食堂」に配布を行う事としました。メンバーで手分けをして直接子ども食堂の方々と連絡を取り、最終的には、東京都内4カ所、神奈川県内1カ所、計5カ所の子ども食堂に賛同していただき、計約40箱分の規格外農作物等を発送することができました。発送する際には、送る野菜がなぜ規格外なのかを説明するためにチラシを作製して同封し、子ども食堂を通じて、食育活動を行っていただきました。発送後、子ども食堂のHPやSNS等で取り上げていただき、また、「子どもたちが新鮮な野菜を体感してもらえたと思います」等の連絡をいただきました。さらに、実際に子ども食堂へ訪問をし、どのように使用して食べていたのか、また、規格外農作物等を受け取り実際にどのように感じていたのか、現場の声を聞かせていただき「本当に助かりました」、「お野菜美味しかったです」等の言葉を言ってくださいました。そのため、日大農場産の野菜、食育、さらには日本大学へのアピールに繋がったと実感でき、良い成果が得られたと思います。しかし、野菜の収穫タイミングと子ども食堂の開催日が合わないことによって発送したい時に発送できなかった場面も見られたため、農場での連携や子ども食堂の発送先を増やす等、反省も見られました。

活動写真

